

国と国との絆

山谷えり子



政府開発援助（ODA）の見直しが進んでゐる。日本は毎年約一兆円のODA援助実績があり、開発途上国の発展に貢献するトップクラスの国と評価されてゐるが、安倍内閣になって、わが国の経済成長や日本にとって好ましい国際環境を作る視点からの戦略的見直しが急テンポで進んでゐる。

九月末、私は参議院のODA調査団長としてミャンマー、スリランカ、ブータンを訪問したが、総理自らが五月に訪ねられたミャンマーでは、道路、港湾、水道、電力などのインフラ整備のほか、日の丸チームによるティラワ経済特区工業用地の開発をはじめとして、法制度整備の支援、民主化促進のためのメディア支援、少数民族支援、都市計画整備支援などが喜ばれてゐた。ミャンマーにはなほ約四万六千柱の日本兵の御遺骨が眠つてゐるといはれてゐる。十三万七千人といはれるビルマ方面で戦歿した人々の霊を慰めるヤングンの日本人墓地で祈りながら、御遺骨帰国の進展につとめることもお誓ひした。

中国が挑発的な政策をとる中で、平和を願ふアジア各国の海洋上の連携も重要である。来年度にはフィリピンに巡視船十隻を供与、ヴェトナムなどアジア諸国のシーレーン沿岸国には海上保安能力の構築を支援するなどの

計画が進められてゐる。ミャンマーでは、テイン・セイン大統領と安全保障の話をし、スリランカでも大統領の弟である国防次官や海上保安関係者と信頼関係を結んできた。日本の海上自衛隊との交流は年々深まってゐる。

国民総幸福量といふ考へ方で注目されてゐるブータンも中国と国境を接し、安全保障上の悩みもある。伝統文化と家族、自然を大切にするといふ価値観を守るためにも国力の維持向上は必要で、日本の海外青年協力隊員から農作物収穫を増やす技術を熱心に学んでゐられた。

日本政府は、今年度の円借款を前年度比一九％増と過去最高にし、日本企業が海外で事業展開しやすいやう運用方針を見直し、途上国向けの金利を半分に引き下げたり、採算に乗るまでは相手国に返済を猶予する制度を作るなどして、中小企業のビジネス展開を助けることとしてゐる。

平成二十三年度の円借款供与国の実績はインド二千九百億円、ヴェトナム二千七百億円、インドネシア七百四十億円、フィリピン六百八十億円、バングラデシュ六百億円、ブラジル五百億円、アフリカ諸国に百六十億円などとなつてをり、日本の技術力とともに、親身で献身的な日本人への尊敬の念は深い。日本人が考へてゐる以上に、世界には親日国が多いと感ずる。

アジア・アフリカの成長を支援しながら、わが国の成長にも繋がるやう政府の積極的平和主義の外交を国と国との絆を深めながら進めていきたい。

（参議院議員、神道政治連盟国会議員懇談会副幹事長）

杜に
想ふ